

交流通信 vol.9

宮古島 津山

宮古島の年末年始について宮古島から学びに来ている美作大学生に聞きました！

図秘書広報室 ☎32-2029



宮古島の年末年始の風習って津山と違うの？

今年も残すところあと少しです。お雑煮やおせち料理を食べて過ごす津山のお正月。宮古島ではどのような正月を過ごしているのか、宮古島出身の大学生、伊志嶺さんと大嶺さんにお話を聞きました。



伊志嶺紗央理さん(児童学科4年生)

お雑煮は食べない！

宮古島では、お正月やお盆などの祝いには「しいむぬ(中味汁)」を食べます。これが、お雑煮の代わりかな？
※「しいむぬ(中味汁)」の作り方はページ下をご覧ください。

もらえるお年玉の数がすごい！

どの家庭も親戚が多いので、もらえる数が多いと思います。金額は、1袋に1～2千円くらい入っていて、お年玉を入れるための袋を持って親戚の家に行っていました。また、知り合いに会うと配るので、私の父も毎年50袋ぐらいお年玉袋を準備していました。

お正月は『おばあ(祖母)』の家で！

お正月は、「おばあ(祖母)」の家で過ごします。親戚がみんな集まるので、すごくにぎやかで、大人は、大勢で酒を酌み交わします。大人数なので、お酒やジュースなどは、クーラーボックスを3箱ぐらい準備して、飲み物を冷やしています。子どもは、たこ揚げやカルタ、トランプなどで遊びます。島には電線が少ないので、たこ揚げは絶好の遊びです。

年越しそばはもちろん宮古そば！

宮古島でも大掃除はしますし、神社に初詣もします。もちろん年越しそばも食べますよ。そばは宮古そばですけどね。



大嶺真希さん(食物学科4年生)

今年のお正月は中味汁で宮古島気分！

宮古島のお祝い料理「しいむぬ(中味汁)」

【材料(4人分)】豚モツ(ゆで)…300g、干しシイタケ…3枚、かまぼこ…4枚、こんにゃく…1/2個、〈調味料〉小麦粉…適量、塩…小さじ1、醤油…大さじ1、粉末だし(かつお)…大さじ1.5、おろししょうが…適量、干しシイタケの戻し汁…300ml、水…1,200ml

【作り方】①こんにゃく、かまぼこは千切りにして、干しシイタケは300mlの水で戻した後千切りにする②豚モツは10分ほど煮て、アクをとる③豚モツの水を切り、小麦粉を入れてよくもみ、水で洗い流す④②③を3回ほど繰り返す⑤干しシイタケの戻し汁、水、千切りした具、豚モツを煮る⑥沸騰したら弱火にして塩、粉末だし、醤油を入れて20分ほどアクを取りながら煮る⑦盛り付けの時に好みでおろししょうがをのせる



きらめく津山人

総合格闘技「修斗」プロ選手
(セコンドアウト所属)
青井 人さん(沼)

世界チャンピオン
になりたい！



10月に行われた「全日本アマチュア修斗選手権」のライト級で史上最年少王者に輝き、全国初の高校生プロ選手となった青井人さん(津山工業高校3年生)にお話を伺いました。

「修斗」を始めたきっかけは？
テレビで総合格闘技の試合を観て、やってみたいと思ったのがきっかけで、中学2年生の時に、津山にも総合格闘技の道場があることを知り、入門しました。入門当初は練習でも負けるばかりだったので、負けず嫌いな自分にとっては悔しかったです。でもその分、次は勝ちたいという気持ちで練習に打ち込むことができました。それまでもサッカー

大会の様子について教えてください
大会前日までは大変緊張していました。でも当日、スパarring(実戦形式の練習)をしている時「打撃で攻めるぞ」と決めて気持ちを高めると緊張は解けました。また、相手の研究も入念にしていたことが、優勝に結び付いたと思います。

修斗から得たことは何ですか？
まず、礼儀の大切さを学びました。道場には子どもから大人まで、幅広い年齢の人が通っているので、敬語やコミュニケーションの大切さなどを学ぶことができました。わたしは人見知りをする性格でしたが、積極

など、いろいろなスポーツをやりましたが、負けたくないという気持ちが強くなったので修斗が自分に一番合っていると感じています。

どのような練習をしていますか？
週5日間、道場で練習をしています。また、大阪にある道場にも出張に行っています。強い選手と練習をする時には積極的に自分の弱点を見つけて、相手の技術を学び取るように心掛けています。試合だけでなく練習の時も、負けたくないと思いがら取り組んでいて、自分でも日に日に強くなっていると感じています。



全日本アマチュア修斗選手権優勝後の青井選手

プロ選手としての意気込みは？
プロとして戦っていくことに少し不安な気持ちもありますが、目標は20歳代前半で世界チャンピオンになることなので、どのような相手でも「絶対に負けたくない！」という気持ちで向かっていく覚悟です。

また、プロ選手は、フィジカル(体格)や技術がアマチュア選手とは違います。今は、来年予定しているプロのデビュー戦に向けて、体作りを進めています。また、自分が得意な打撃の技術もさらに磨きをかけたいと思っています。

インタビュウ中、時折、高校生らしいあどけなさをのぞかせた青井さん。しかし、修斗にかける思いを語る時の真剣なまなざしから格闘家としての強い気持ちを感じました。

的に人と関わることができるようになり、精神的にも成長できたと感じています。